スズキ株式会社 アニュアルレポート ２００６年

（第１４０期：2005 年 4 月 1 日 － 2006 年 3 月 31 日）

日本語版（抜粋）

本 PDF ファイルは、投資家の皆様の便宜のため、英文版の「ANNUAL REPORT 2006」の会社概況説明ページを和訳したものです。
財務諸表につきましては、英文版の「ANNUAL REPORT 2006」の 18 ページ“FINANCIAL SECTION”以降をご参照くださいますようお願い致します。

トップメッセージ

当社「アニュアルレポート 2006」をお手許にお届けするにあたりまして、一言ご挨拶を申しあげます。

当期の当社グループを取巻く経営環境は、原油価格の高騰等の影響が懸念されたものの、国内においては、企業収益の改善や需要の増加などから設備投資は増加し、また、個人消費も底堅く推移したことなどから、景気は緩やかに回復を続けてきました。海外においても、米国をはじめ世界全体の経済は概ね順調に推移し、着実に回復してきました。
このような状況下、「スズキ中期５ヵ年計画」のスタートとなる当期は、研究開発投資・設備投資などの先行投資による負担増などから、期初の計画は減益見通しでしたが、当社グループ一丸となって取り組んでまいりました結果、当期の業績は、連結売上高は 2 兆 7,464 億 5 千 3 百万円(前期比 116.1%)、連結利益の面では、減価償却費・研究開発費・諸経費などの増を、原価低減や売上増加、為替差益で吸収し、営業利益は 1,138 億 6 千 5 百万円(前期比 105.9%)、経常利益は 1,193 億 2 千 1 百万円(前期比 108.9%)、当期純利益は 659 億 4 千 5 百万円(前期比 109.0%)となりました。
一方、当社単独の売上高は 1 兆 6,901 億 6 千 9 百万円(前期比 114.1%)となりましたが、減価償却費・研究開発費・諸経費の増などにより、営業利益は 474 億 8 千 2 百万円(前期比 89.9%)、経常利益は 521 億 7 千 9 百万円(前期比 98.6%)と減益となり、当期純利益は 372 億 7 千 1 百万円(前期比 104.3%)と特別損失の減などにより増益となりました。
なお、当期末の利益配当金につきましては、1 株につき普通配当 5 円に特別配当 1 円を加えた 6 円（中間配当を含め年 11 円）とさせていただきました。
当社グループを取巻く経営環境は、為替変動など極めて不透明であり、また、企業間競争は一段と激化し、ますます厳しい状況にあります。
このような厳しい環境に対処するため、当社グループは、基本方針として“生き残るために、我流をすてて、基本に忠実に行動しよう”を掲げ、あらゆる分野での見直しを行い、経営体質の強化に努めてまいります。
また、当社は、取締役の数を従来の半数程度とし、新たな役員制度(専務役員・常務役員)を導入することにより、各部門の業務運営を機動的に行い、業務のスピードアップと責任体制の明確化を図ってまいります。なお、取締役は、たて割の弊害をなくし、経営的な視点から横断的に事業をみることが出来るよう、複数の事業部門を担当するものとします。
二輪車におきましては、国内では、原付車や大型二輪車の拡販に努め、また、欧州・北米市場では、レースで培った「スポーティ、若々しさ、ユニークさ」といったブランドイメージを成長させられる商品を投入し、収益性の高い二輪車事業を構築してまいります。
また、アジア地域では、経済成長とともに二輪車需要が急増しており、これらの市場ニーズにあった商品の投入とともに、生産体制の整備・拡充に努めてまいります。

四輪車におきましては、国内・海外ともに市場に密着した商品づくりと営業活動を進めてまいります。国内では、営業マンの増員・教育など販売力を強化し、また、「スズキ アリーナ店」の店づくりを進め、販売増に結びつけてまいります。一方、海外においては、部品の現地調達、コストダウン活動や一層の品質・生産性向上などを推進し、海外拠点のさらなる強化を図ってまいります。
さらに、世界４極市場にマッチした商品を効率的にスピードを上げて開発し、タイミングよく商品化していくよう努めてまいります。また、地球環境保護のために、排出ガス低減、燃費向上、省資源化、リサイクル化など環境に配慮した商品開発を推進するとともに、ディーゼルエンジンについてはフィアット社、ハイブリッド車・燃料電池自動車等の開発は、ゼネラル モーターズ社など、各社との提携による効果を最大限活用し取り組んでまいります。
なお、2006 年 3 月に、ＧＭグループが当社株式を売却したことにより、当社に対する出資比率は 3.0％となりましたが、当社とゼネラル モーターズ社は 1981 年 8 月以来、25 年間にわたって建設的な提携関係を継続しており、今後とも、先端技術の開発協力、カナダでの合弁工場ＣＡＭＩプロジェクト及びそこでの新型ミディアムＳＵＶ生産、パワートレイン開発協力、ＯＥＭ製品の相互供給、グローバル共同購買など具体的なプロジェクトは積極的に推進してまいります。
また、当社は、2001 年 4 月の合意に基づき、日産自動車株式会社に軽自動車をＯＥＭ供給しておりますが、今後は、相互供給を前提として、ＯＥＭ供給などを拡大していく予定です。
当社グループは、「小さなクルマ 大きな未来」をスローガンに、これからもお客様の求める「小さなクルマづくり」、「地球環境にやさしい製品づくり」に邁進するとともに、生産をはじめ組織・設備・部品・環境などあらゆる面で「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」を徹底し、ムダのない効率的な健全経営に取り組んでまいります。
また、役員及び従業員は、法令、社会規範、社内規則等を遵守し、公正かつ誠実に行動してまいります。
皆様の引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申しあげます。
2006 年 6 月

代表取締役会長（ＣＥＯ）鈴木修
代表取締役社長（ＣＯＯ）津田紘

四輪事業

スズキの世界生産と世界販売台数

2005 年度の四輪海外生産台数は 1,067 千台を達成、前年比 112％と、前年を大きく上回りました。日本を含めた世界生産では 2,200 千台、前年比 110％となりました。また四輪海外販売台数は、1,360 千台、前年比 112％と伸長し、日本を含めた世界販売台数は 2,067 千台、前年比 109％となりました。

国内市場

１．国内市場の概況とスズキの状況

2005 年度の全メーカーの国内四輪車総販売台数は、5,861,544 台（前期比 101％）と 2 年振りに前年実績を上回りました。
その内、登録車（軽以外の四輪車）の総販売台数は、3,913,182 台（前期比 99%）で前期に続き 400 万台を割込み、3 年連続で前年実績を下回りました。乗用車は普通乗用車が振るわず前年を下回りましたが、商用車は旺盛なトラック需要に支えられて前年を上回りました。
一方、軽自動車の総販売台数は、1,948,362 台（前期比 104％）で、3 年連続で前年を上回り、6 年ぶりに 190 万台を超えました。また年度実績としては過去最高を更新しました。軽乗用車が各社の積極的な新型車投入により順調に伸び、総販売台数を押上げました。

スズキの 2005 年度国内四輪車総販売台数は、705,190 台(※１)（前期比 105％）で、2 年連続で前年実績を上回るとともに、初めて 70 万台を超え、過去最高となりました。国内市場におけるスズキの占拠率は、前年同期差＋0.5 ポイントの 12.0％で、国内 12 メーカー中 4 位でした。　(※１)登録車にシボレークルーズ、シボレーMW含む

２．スズキの販売状況

2005 年度スズキは、軽自動車市場において「エブリイシリーズ」、「MR ワゴン」のフルモデルチェンジを実施し、また特別仕様車の積極的な投入や乗用系各車のマイナーチェンジを行ない、商品力強化を図りながら販売台数を伸ばしました。スズキの軽自動車販売台数は 625,542 台（前期比 104％）で、2 年連続で前年実績を上回り、過去最高を更新しました。その結果、33 年連続して軽自動車年間販売台数第 1 位となりました。
登録車市場においては、「エスクード」（輸出名：Grand Vitara）のフルモデルチェンジを行ない、また「スイフト」にスポーツモデルの追加や特別仕様車を設定するなど、相次ぐ商品力強化を図った結果、登録車販売台数は 79,648 台(※2)（前期比 113%）となり、6 年連続で前年実績を上回り、過去最高を更新しました。
2004 年 1 月からスズキが輸入販売を開始したシボレーブランド車は 1,977 台（前期比 100％）を販売しました。スズキ登録車販売と合わせ 81,625 台となり、登録車販売で初めて 8 万台を超えました。　(※2)　シボレークルーズ、シボレーMW含む

３．スズキ車のトピックス

・2005 年 5 月に「エスクード」をフルモデルチェンジしました。モデルチェンジ以降の販売は前年比 387%と大幅に販売台数を伸ばしました。
・2005 年 8 月に軽乗用車「エブリイワゴン」と軽商用車「エブリイ」をフルモデルチェンジしました。モデルチェンジ以降のエブリイシリーズの販売は、前年比 129%と好調に伸びました。
・2004 年 11 月に発売した「新型スイフト」は、「2006 年次 RJC カー・オブ・ザ・イヤー」と「2005 - 2006 日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞『Most Fun』」を受賞し、販売においてもスイフトシリーズは前年比 125%と順調に推移し、スズキ登録車の牽引役となりました。
・2006 年 1 月に「MR ワゴン」をフルモデルチェンジしました。モデルチェンジ以降は前年比 206%と大幅に販売を伸ばしました。
・「ワゴン R」は 2006 年 3 月に、12 年 7 ヶ月の短期間で、国内累計販売台数 250 万台を達成しました。また 3 年連続で軽自動車車名別届出台数第 1 位となりました。
・「キャリイ」は 35 年連続でトラック部門販売台数第 1 位となりました。

海外市場

１．海外でのスズキの状況

アメリカでの末端販売は 89 千台（ハワイ除く、前年比 119%）と過去最高の台数を記録、これは、「グランドビターラ」（前年比 291%）、GM 大宇製「フォレンツァセダン」（同 140%）の販売増に起因します。欧州でも「スイフト」の好調な販売に牽引され 280 千台（同 119%）を記録、これも過去最高の実績となります。ハンガリーのマジャールスズキ社の生産台数は「スイフト」の拡販及びＳＸ４の生産開始により前年比 157%となる 150 千台を超えました。
また、アジア方面では、インドネシアの ISI 社が、燃料代の高騰・金利の上昇等に起因する消費マインドの冷え込みで2005年後半から市場が激退し、生産台数87千台（前年比97%）輸出を含む販売台数 85 千台（同 95%）と前年を下回る一方、インドのマルチ社は「スイフト」の生産を開始し、生産台数 572 千台（前年比 106%）、販売台数 561 千台（同 105%）と伸長。特に、「スイフト」はインド国内初年度販売台数として最高となる 61,200 台を記録しました（05 年 5 月～06 年 4 月）。
また、パキスタンのパックスズキ社では、生産台数 92 千台（前年比 133%）、販売台数 92 千台(同 135%)と大幅な台数増を達成しました。

戦略車の投入

2005 年に販売を開始した世界戦略車第一弾の「スイフト」は、各国で高い評価を得て、数カ国において Car of the year を獲得することができました。
今期スズキは「スイフト」に続く世界戦略車を２機種発表しました。2005 年春から「ビターラ」の第三世代となる新型「グランドビターラ」を発表。同モデルは、各国で好評を博し、生産開始半年を待たず 44%の年間販売計画台数の上方修正をいたしました。また、2006 年 2 月には、スズキのコンパクトカーにおける DNA のもと、「スイフト」で培ったスポーツ性能とスズキの伝統である SUV をクロスオーバーさせた「SX4」を発表しました。シャーシーの高剛性に注力し、走行安定性とハンドリング性能を高めた当モデルのパフォーマンスは、欧州ジャーナリストから高い評価を得ております。同モデルは、各市場でのニーズに基づく細かいチューニングを施し今後世界各国へ展開していきます。

モータースポーツ

スズキの世界戦略車は、モータースポーツシーンでも活躍し続けています。「スイフト」（Super1600）は、Junior World Rally Championship に 2005 年 8 月にデビューし、2006 年初戦より優勝を飾っています。
また、「SX4」は、ワールドプレミアに際し WRC への参戦も表明しました。優れた 4WD 性能を有する「SX4」は WRC でのポテンシャルが高く、現在、2007 年 8 月の参戦に向け調整を続けております。

スズキは海外においてはアクティブライフをクリエイトするキーフレーズとして「Way of Life!」をブランドフィロソフィーとして位置付けております。今後も、ブランドフィロソフィーに基づく商品を供給し続けるべく最善の努力を続けて参ります。

二輪事業

スズキの世界生産台数と世界販売台数

2005 年度の二輪海外生産台数（ATV 含む）は 2,533 千台、前年比 102%と前年を上回り、日本を含めた世界生産台数では 3,138 千台、前年比 106%となりました。また、二輪海外販売台数（ATV 含む）は、2,907 千台、前年比 104%と伸長し、日本を含めた世界販売台数は 3,061 千台、前年比 105%となりました。

国内市場

１．国内市場概況

2005 年度における国内二輪市場の国内 4 メーカーの出荷台数は、総台数で 710 千台（前期比 103%）となりました。内訳は、125cc 以下の原付クラスで 563 千台（前期比 101%）、126cc 以上の大型クラスで 147 千台（前期比 108%）と、ともに伸長しました。原付クラスのうち、50cc 以下のクラスでは、全体の 80%を占めるスクーターが 381 千台と前年比 99%に減少し、478 千台（前期比 98%）と前年割れとなりました。51cc～125cc は新商品効果によりスクーターが増加し、85 千台（前期比 126%）と伸長しました。大型車をみると、126～250cc クラスでは、好調を維持するスクーターがツーリングモデルとともに牽引材料となり 101 千台（前期比 109%）となりました。251～400cc クラスでは、スクーターの大幅な増加によりクラス全体で 26 千台（前期比 109%）と伸長しました。401cc 以上クラスでは、ツーリングが減少したもののスクーターが伸びたため 20 千台（前期比 103%）となりました。

２. スズキの状況

2005 年度におけるスズキは、125cc 以下の原付車クラスで 126 千台（前期比 119%）、126cc 以上の大型車クラスで 25 千台（前期比 103%）と、ともに伸長し、総台数で 151 千台（前期比 116%）となりました。原付車では、2004 年 10 月に市場投入した 50cc 4 サイクルスクーターの「レッツ 4」などの出荷が増加しました。特に 2005 年 2 月発売の「アドレス V125」は、51～125cc クラスで 34 千台（前期比 221%）の出荷となり、51～125cc クラス全体の需要拡大にも寄与いたしました。大型車については、126～250cc クラスでスクーターの「スカイウェイブ 250SS」などの好調により 18 千台（前期比 113%）と伸長しました。 251～400cc クラスでは前年「DR-Z400SM」で伸びたツーリングクラスが今年は減少し、5 千台（前期比 76%）となりましたが、401cc 以上クラスはツーリングクラスが好調で 3 千台（前期比 102%）と伸長しました。

海外市場

１．海外生産の状況

海外生産用部品（SET）での二輪車の輸出台数は 2,286 千台で前期比 95%となりました。今期のアセアン主要 5 カ国（インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシア）の全社販売台数は 8,908 千台（前年比 111%）と伸長しました。スズキの販売台数は 5 カ国合計で 1,245 千台、前期比 95%に留まりましたが、今後商品ラインナップの強化、特に市場が拡大しているスクーター市場へ新商品を投入し、販売を伸ばしていきます。中国では、全社卸販売台数が 13,800 千台（前期比 108%）、スズキの卸販売台数は前年並の 852 千台でした。今後は中国国内での販売を伸ばすとともに、価格競争力の高い中国生産モデルをアジア・中南米・アフリカなどへ輸出し拡販していきます。7,574 千台の市場を持つインドに、スズキは今期末から再参入し、全体市場の約 8 割を占めるバックボーンセグメントにモデルを投入、2006 年 3 月より販売店への出荷を開始しました。今後、販売店を増やしつつ、市場状況を見ながら順次モデル数を増やすことによって市場への浸透を図っていきます。

２．商品の拡充

スズキのスーパースポーツモデル「GSX-R」シリーズでベストバランスを誇る「GSX-R750」、欧米市場で人気のある「GSX-R600」のフルモデルチェンジを行い、性能およびスタイリングを一新しました。スーパースポーツ車市場において高い評価を得て、ブランドイメージの向上、販売の強化に大いに貢献しています。また、新モデルの「GSR600」は、独創的かつエモーショナルなスタイル、高レベルのライディング性能を持つネイキッドモデルで、イタリアを中心に欧州で好評価を受けております。大排気量クラスでは、世界で愛されるベストバランスツアラーモデルである「Bandit1200/S」、ダイナミックでスタイリッシュなクルーザー「Suzuki Boulevard M109R (Intruder M1800)」、タンデムの魅力を実感できるプレミアムスポーツスクーター「Burgman400(Skywave 400)」等、市場のニーズに応えた個性豊かな新モデルの投入によって、引き続きラインナップの拡充を進めています。

ATV に関しては、新モデルとしてスポーツ ATV である「LT-R450」の生産を開始し、そのパワーと性能が高く評価され販売も好調に推移しております。また、アメリカの生産工場 SMAC は人気モデル「KingQuad700」の生産を開始し、生産台数が年々拡大しております。

３．レース活動

レース活動については、「Own the Racetrack」のスローガンのもと、「GSX-R」シリーズ・「RM／RM-Z」シリーズが世界的に活躍しました。スーパーバイク世界選手権ではトロイ・コーサー(Troy Corser)が乗る「GSX-R1000」がライダーとメーカーでチャンピオンを獲得。世界耐久選手権でも「GSX-R1000」を駆るスズキエンデュランスレースチームが、チャンピオンを獲得。大型二輪車の世界最大の市場であるアメリカでも、AMA スーパーバイク選手権でマット・ムラディン(Mat Mladin)が「GSX-R1000」で、6 度目のシリーズチャンピオンを獲得しました。さらにオフロードの分野でも、リッキー・カーマイケル（Ricky Carmichael）

が AMA スーパークロス選手権では「RM250」で、AMA ナショナルモトクロスでは「RM-Z450」で、それぞれシリーズチャンピオンを獲得しました。「GSX-R」、「RM／RM-Z」共に、高いポテンシャルを発揮して、これら数々のチャンピオンタイトルを獲得したことで、世界中にスズキブランドとスズキ製品の優秀性を示しました。

マリン製品

国内市場

2005 年度におけるスズキ船外機の国内販売台数は、前年比 109%と前年を大きく上回りました。機種別では 4 ストロークの大型モデルが大幅に伸び、売上高の拡大に大きく貢献致しました。
今後も、自然環境保護に対応した 4 ストローク船外機の開発に注力し、ラインナップの拡大を図ってまいります。

海外市場

2005 年度におけるスズキ船外機の輸出は、台数では CBU（完成機）とタイスズキ向け CKD を併せて前年比 117%、売上高では前年比 108%と、前年度を上回りました。これは、北米及び欧州向けを中心に、船外機の出荷が好調であったことによります。

現在のスズキ 4 ストローク船外機は、2005 年末にラインナップに追加された最小馬力モデル「DF2.5」(1.8kW、2.5 馬力)から最大馬力「DF250」(184.0kW、250 馬力)までのラインナップとなっております。

スズキは、2006 年 2 月に開催された米国のマイアミ国際ボートショーにおいて、2007 年ニューモデルとして V6 の 4 ストローク船外機としては世界最大の出力を誇る「DF300」(220.7kW、300 馬力)を発表しました。

環境

スズキは、四輪車製品・二輪車製品・特機製品などの総合メーカーとして、製品の開発から廃棄に至るまでの全ての段階で環境保全に取り組んでいます。
『設計・開発』の分野では、従来からの「安全性の向上」「信頼性の向上」「快適性の向上」などの要件に加え、環境要件である「燃費の向上」「排出ガスの低減」「騒音の低減」「省資源化の促進」「リサイクル性の向上」などが求められており、多面的かつ高度な技術開発を進めています。
『生産・購買』の分野では、「省エネルギーの促進（CO2 の削減）」「埋立廃棄物の削減（歩留まりの向上、リサイクルの促進）」「化学物質管理の徹底」「グリーン調達の促進」などに取り組んでいます。
『市場』の分野では、「使用済み製品・部品の適正処理」を進めると共に、それらの作業に役立つ「解体マニュアルなどの情報提供」も行なっています。
『物流』及び『オフィス』の分野では、「省エネルギーの促進」「省資源・リサイクルの促進」「グリーン購入の促進」などに取り組んでいます。
また、『社会貢献』の分野においても、「環境美化運動への参加」「湖の浄化研究への協力」「環境展示会への出展」「森林管理認証の取得」を行なうなど、スズキは様々なアプローチによって環境保全を推進しています。

2005 年度のトピックス

「スズキ環境・社会レポート 2005」を発行しました。スズキは 1999 年度から毎年度発行しており、スズキの環境への取り組みを網羅して掲載しています。7 号目となる 2005 年度版では、資料部分を CD-ROM 化して紙の消費を削減しました。また、「地域環境への貢献」として、事業所周辺の清掃活動を定期的に行っています。森林保全への協力も行っており、国から土地を借り上げて「スズキの森」と名づけ、植林を行いながら森林の育成にも取り組んでいます。

GM との戦略的提携

スズキと GM は、1981 年 8 月より業務提携を開始致しました。　以来、戦略的提携パートナーとして、多方面において提携の成果を着実にあげて参りました。
2006 年 3 月にはスズキに対する GM の出資比率はそれまでの 20%から 3%へと変更されましたが、両社は今後もこれまで通り業務提携を維持/推進することで合意致しております。両社は互いの強みを活かしながら、各々の経営資源の相互活用/補完により、投資コストを抑えてより良い製品をより早く開発し、全世界に最適な商品を迅速に投入することができるよう、これからも協業を推進して参ります。

・2006 年のニューヨークショーで発表した、スズキ初の中型 SUV「XL7」を、北米市場向けに 2006 年 8 月より GM との合弁会社 CAMI（カナダ　オンタリオ州）にて生産開始致します。このモデルには、2006 年 6 月からスズキの相良工場で生産される、GM 設計の新型 V6 エンジン（排気量 3.6L）を搭載致します。　このエンジンはオールアルミ製 DOHC24 バルブで、可変バルブタイミング機構等の最新技術を採用しています。

・日本国内におきましては、2001 年 11 月にスズキ湖西工場製の共同開発車シボレー　クルーズを発売し、それ以後 2004 年 1 月に米国製シボレー　トレイルブレイザー、同年 3 月より同じくシボレー　アストロの輸入販売を開始しました。　更に 2005 年 1 月に韓国 GMDAT 製シボレー　オプトラセダン、2 月に同ワゴンの輸入販売、2006 年 1 月には湖西工場製「シボレーMW」の販売を開始するなど、シボレーブランド車の拡販に注力してきております。

役員

【会長】
鈴木修
【社長】
津田紘

【取締役 専務役員】
中山 隆志
中西 眞三
坂本 昭博
廣澤 孝夫
鈴木 和夫
繁本 武雄
小野 浩孝
田村 実
望月 英二
鈴木 俊宏
國清 巧
杉本 豊和

【常勤監査役】
神村 保
堀内 伸恭
久米 克彦
【監査役】
石塚 伸
小杉 和弘

2006年7月1日付け

会社概要

スズキ株式会社

本社:
〒432－8611
静岡県浜松市高塚町300

主な海外子会社

Suzuki International Europe GmbH
ドイツ ベンスハイム市
Suzuki Motor España, S.A
スペイン ヒホン市
Suzuki Motor Iberica, S.A
スペイン レガネス市
Suzuki Italia S.p.A.
イタリア トリノ市
Suzuki Austria Automobil Handeles G.m.b.H
オーストリア ザルツブルグ市
Suzuki France S.A.
フランス トラップ市
Magyar Suzuki Corporation
ハンガリー エステルゴム市
Suzuki GB PLC
イギリス ミルトンキーンズ市
Suzuki Motor Poland SP.Z.O.O.
ポーランド ワルシャワ市
American Suzuki Motor Corporation
アメリカ カリフォルニア州 ブレア市
Suzuki Manufacturing of America Corporation
アメリカ ジョージア州 ローム市
Suzuki Canada Inc.
カナダ オンタリオ州 リッチモンドヒル市
Maruti Udyog Ltd.
インド ニューデリー市
Suzuki Motorcycles Pakistan Ltd.
パキスタン カラチ市
Pak Suzuki Motor Co., Ltd.
パキスタン カラチ市
P.T. Indomobil Suzuki International
インドネシア ジャカルタ市
Suzuki Philippines Inc.
フィリピン マニラ市
Thai Suzuki Motor Co., Ltd.
タイ パトゥムタニ県 ランシット地区
Myanmar Suzuki Motor Co., Ltd.
ミャンマー ヤンゴン市
Cambodia Suzuki Motor Co., Ltd.
カンボジア カンダール県 アンスヌール地区
Suzuki Australia Pty. Ltd.
オーストラリア メルボルン市
Suzuki New Zealand Ltd.
ニュージーランド ワンガヌイ市
Suzuki Motor de Colombia S.A.
コロンビア ペレイラ市